

ハリウッド美容専門大学校

学校関係者評価報告書

令和7年3月

まえがき

専修学校においては、実践的な職業教育機関として、関係業界等からのニーズを踏まえた教育活動等の評価や情報公開が求められている。専修学校の学校評価については、平成19年に学校教育法および学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。さらに、平成25年3月には、専修学校の質保証・向上をめざして「専修学校における学校評価ガイドライン」が策定された。

一方、専修学校の専門課程のうち、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術および技能について組織的な教育を行うものを、文部科学大臣が「職業実践専門課程」と認定するにあたっては、当該専修学校における学校関係者評価の実施が、認定要件の一つとなっている。

ハリウッド美容専門大学校は、従来から自己点検・自己評価を積極的に実施し、教育等の質保証・向上に取り組んできた。平成22年度には、特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構が実施する私立専門学校等第三者評価を受審した。この第三者評価で指摘された事項あるいは自己点検・自己評価で認識された事項について改善した上で、平成25年3月に自己評価、同年12月に学校関係者評価を実施した。さらに、今回、平成29年3月に自己評価を実施した。学校関係者評価は、この自己評価報告書を中心に、行われた。

なお、平成29年4月より、学校名を「ハリウッドビューティ専門学校」から創立時の名称であり、学生募集の照会や資料請求に於いても知名度の高い「ハリウッド美容専門学校」に変更し、さらに令和7年4月より、「ハリウッド美容専門大学校」に変更し、ブランドイメージの一層の強化を図る。

この報告書は、この学校関係者評価結果をまとめたものである。

目 次

まえがき

I. ハリウッド美容専門学校の現況、目的および特徴

II. 学校関係者評価の内容・方法等

III. 重点目標の達成状況

IV. 評価結果の総評

I. ハリウッド美容専門学校の現況、目的および特徴

ハリウッド美容専門大学校は、東京都港区六本木に位置し、大正 14 (1925) 年に「ハリウッド美容学校」として開設し、学校法人メイ・ウシヤマ学園が設立した私立専門学校である。トータル美容専門課程に修業年限 2 年・1 年のトータル美容学科及び修業年限 4 年の高度トータル美容学科が設置されている。

令和 6 年 5 月 1 日現在、学生数は 544 名である。本校の教育理念は、精神美・健康美・容姿美・服飾美・生活美・環境美の六要素すべて備えた「真のビューティフルライフ」の実現である。創立以来この「美の哲学」を追求し、常に先端的なビューティとファッションを中心に美の六要素を総合的に指導し「好きな仕事を天職にしよう」「一流の美の天使を目指そう」をテーマで教育活動を行ってきた。

「好きな仕事を天職にしよう」とは、好きなことでも、技術や知識を身につけることがなければ、職業人（プロフェッショナル）として活動することができない。本専門学校では、美容やファッションのプロフェッショナルをめざす者に、確実に知識と技術を身につけさせ、時代が求めるプロフェッショナルなビューティシヤンの育成を目的としている。そして、厚生労働省指定の美容師養成施設として、業務独占資格である美容師資格を有する者の「社会的責任の自覚」を基本に据えた教育を一貫して行っている。「一流の美の天使」とは、人の隠れた魅力を発見できる豊かな心と、人の魅力を引き出す優れた技術と感性をもち、人を美しく幸福に導く使命が実践できることである。本専門学校では、そのような真のビューティスペシャリストを育成することを目的としている。

グローバル化、高度情報化に支えられた今日の経済社会の発展に伴い、人々の生活は豊かなものになり、生活の中でも質の高いものが求められてきている。その中で美しさへの欲求もファッションや美容に関わる外面の美しさから、健康や精神の内面美も含めた総合美（トータルビューティ）へと広がってきている。本専門学校も消費者の美的欲求水準の高度化、多様化に伴い、美容技術の高度化と美容分野の多様化に対応した美容教育を行い、消費者ニーズに確実に応えられる美容師、エステティシヤン、ビューティアドバイザーの養成をめざしている。本専門学校の教育理念・目的は、国際的にも高く評価されており、世界的に権威のある美容家協会（Intercoiffure Mondial, ICD）より、2011 年ベスト・ワールド・アカデミーを受賞している。また、外国人留学生も多く、修了生の多くが海外で活躍している。

文部科学省より「専修学校専門課程の質保証・向上」を基に、専修学校専門課程における職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、平成 26 年度より「職業実践専門課程」として認定制度が創設された。本専門学校も職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術および技能について組織的に教育を行う学校として、「職業実践専門課程」として認可され、美容教育の中核的立場を推進する。またそれに伴い美容の知識、技術の内容を現在の若者の志向、社会が求める環境変化に対応して、美容師養成施設として、高度専門科・美容専門科・トータルビューティ専門科それぞれの特色を残しながらも、ハリウッドのトータル美容の統一化を目指している。

II. 学校関係者評価の内容・方法等

ハリウッド美容専門学校は、学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたかどうか等について、従来から積極的に自己点検・自己評価を実施し、その結果を公表するとともに、教育活動や学校運営の改善等に活用してきた。平成28年度より、表1に示した評価基準（11基準）および点検中項目（48項目）について自己評価を行って、自己評価報告書を公表した（平成29年3月）。なお、この評価基準および点検中項目は、特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構が実施する私立専門学校等第三者評価に準拠したものである。

評価基準	点検中項目
基準1 教育理念・目的・ 育成人材像等	11 理念・目的・育成人材像は定められているか 12 学校の特色はなにか 13 学校の将来構想を抱いているか
基準2 学校運営	21 運営方針は定められているか 22 事業計画は定められているか 23 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか 24 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 25 意思決定システムは確立されているか 26 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
基準3 教育活動	31 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 32 修業年限に対応した教育達成レベルは明確にされているか 33 カリキュラムは体系的に編成されているか 34 学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 35 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 36 授業評価の実施・評価体制はあるか 37 教育目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 38 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 39 資格取得の指導体制はあるか
基準4 教育成果	41 就職率（卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか 42 資格取得率の向上が図られているか 43 退学率の低減が図られているか 44 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか
基準5 学生支援	51 就職指導に関する体制は整備されているか 52 学生相談に関する体制は整備されているか 53 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 54 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 55 課外活動に対する支援体制は整備されているか 56 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

	57 保護者と適切に連携しているか 58 卒業生への支援体制はあるか
基準6 教育環境	61 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 62 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 63 防災に対する体制は整備されているか
基準7 学生の募集と受け入れ	71 学生募集活動は適正に行われているか 72 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 73 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか 74 学納金は妥当なものとなっているか
基準8 財務	81 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 82 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 83 財務について会計監査が適正に行われているか 84 財務情報公開の体制整備はできているか
基準9 法令等の遵守	91 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている 92 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 93 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 94 自己点検・自己評価結果を公開しているか
基準10 社会貢献	101 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 102 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
基準11 国際貢献	111 教育の国際化・グローバル化を行っているか

この自己評価を踏まえて、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、高等学校関係者、地域支援者、学識経験者など、学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、教育活動、学校運営等の改善を目的として学校関係者評価委員会（以下「委員会」と略す。）が設置された。委員会では、ハリウッド美容専門大学から、計画や自己評価報告書の内容、重点目標、今後の取組方針等について説明を受けた後、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価することを基本とする とを確認した。具体的には、

- ・自己評価の結果の内容が適切か
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

などを評価するとともに、学校運営の継続的改善を図る観点から、改善のために専門的立場から助言を行う こととした。この学校関係者評価は、ハリウッド美容専門大学から提出された自己評価報告書を中心 としたが、同校が公開している情報も参考にしつつ実施した。この報告書は、委員会での意見・助言等をまとめたものである。ハリウッド美容専門大学にあつては、各委員の意見・助言等を、教育活動、学校運営等の改善に活用することを期待したい。また、この報告書が、教育活動等の具体的な方針・方策の策定、次期重点目標の策定等に反映されることを期待したい。

Ⅲ. 重点目標の達成状況

ハリウッド美容専門学校は、重点目標として表2に示す二項目を掲げてきた。

【表2 ハリウッド美容専門学校が掲げる重点目標】

<ul style="list-style-type: none">・在校生・卒業生の社会的評価の向上 本校の学修成果目標は、国家試験合格、就職であるが、加えて、学んだことを職場・社会において十分に活かすことができる力を育むことも重要であると考えている。そのため、学生に対して目標を明確化し、各種コンテストへの挑戦を奨励・支援する。
<ul style="list-style-type: none">・入学定員の充足 定員充足は、学校運営・教育活動の基盤であり、質の高い教育活動を行うため重要なことである。そのため、学校説明会を充実させるなど具体的に入学定員の充足のために取組を強化する。

在校生・卒業生の社会的評価の向上 美容師国家資格の合格率は、春・秋合わせて過去3年間共に90%以上で、全国平均（全国平均合格率80%）を超える水準を維持している。この他、日本ネイリスト協会3級など、それぞれの試験において全国平均合格率を上回る結果を残している。

平成28年度に参加した主要な大会で、本校の在校生が輝かしい成績を残した。「F s GROUP SUPPORT PERM WINDING CONOURS」のスクール部門では、ワインディング部門で優勝、準優勝。令和6年度の「全国理容美容学生技術大会全国大会」のワインディング部門でも、当校2年生の学生が見事全国優勝をしている。世界的に権威のある美容家協会（ICD）では、2011年ベスト・ワールド・アカデミーを受賞した。この賞は、国際的に特に優れた美容学校に授与されるもので、アジアでは初の快挙であった。

本校では、1年生の修了作品発表会として「ファッション&ビューティショー」が毎年度開催されている。このショーは、企画・構成から、制作、演出、衣装づくりなど、すべてが学生たちによって制作・運営されている。このショーには、保護者ばかりでなく関連業界の関係者、地元住民も招待されており、ショーの主たる目的は学生の意欲向上を図る機会の提供ではあるが、発表内容は評価され、在校生の学習成果が就職率向上へつながらぬ優れた取組ともなっている。以上に理由から、この重点目標は、着実に達成されているものと判断できる。

入学定員の充足に関して、令和6年5月1日現在の学生数は、総合美容科（昼）205名（入学定員400名、修業年限2年）、高度総合美容科（昼）51名（入学定員160名、修業年限4年）、総合美容科（昼）268名（入学定員320名、修業年限1年）となっており、入学定員の充足が課題となっている。現在、学生生徒等納付金への影響は小さいが、今後、財政基盤に影響を及ぼす可能性も危惧される。学校説明会などの教職員全員の努力によって、改善の傾向は認められるが、18歳人口の減少や大学への進学率の増加など社会的環境の変化を配慮しつつ、学科・課程の統廃合を含めた抜本的な対策が必要であろう。

IV. 評価結果の総評

ハリウッド美容専門大学校は、学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたかどうか等について、従来から積極的に自己評価を実施し、その結果を学校の教育活動をはじめ運営全般の改善等に活用してきた。平成22年度には、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が実施する私立専門学校等第三者評価を受審した。この第三者評価では、本校は、学校の理念、教育内容、コンプライアンス等について高い評価を受けた。

この第三者評価で指摘された事項あるいは自己点検・自己評価で認識された事項について改善し、今回、平成28年3月に自己評価を行った上で学校関係者評価を実施した。平成28年度の自己評価は、表1に示した評価基準（11基準）および点検中項目（48項目）について実施されており、学校の諸活動全般を俯瞰的に把握できるように設計され、的確かつ適正な自己評価であると判断できる。各評価基準および点検中項目で示された方針や目標は妥当であり、課題は的確に把握されており、それぞれの改善取組も適切であると判断できる。

美容・化粧品業界は、日本が国際的な優位性をもっている数少ない業界の一つであり、今後世界へ、特にアジアへの進出が期待されている。このグローバル化による美容市場の拡大のためには、中核的なグローバル専門人材の育成が急務となっている。このような状況下で、ハリウッド美容専門大学校は、この分野で指導的立場にあり、平成27年度に引き続き28年度も文部科学省成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業「美容分野の専門人材の育成を支援する産学官連携コンソーシアムの組織」および「美容師のためのキャリア・フレームワークと教育プログラムの構築およびその海外への普及（職域プロジェクト）」の責任組織として成果をあげた。前者は、全国美容専門学校、美容業界団体等が連携して、アジア地域等における国際的な質保証を伴った教育フレームワーク構築や人材育成プロジェクト等を推進するものである。後者は、美容師のキャリア形成を支援するために、専門学校の学習成果の国際的な通用性を確保する教育フレームワークを構築し、美容教育の質の保証と向上を図ることを目的としたものである。このように、ハリウッド美容専門大学校は、この分野の中核的存在であり、さらに国際的にも発展が期待される。

【優れた点】

- 世界的に権威のある美容家協会（ICD）より、2011年ベスト・ワールド・アカデミーを受賞した。これは、ハリウッド美容専門大学校の教育活動が国際的に高く評価されたものであり、アジアでは初の快挙であった。
- 学習成果を示す一つの指標である各種コンクールでの在校生の活躍が注目される。毎年この分野の主要な大会で、本専門学校の在校生が活躍している。令和6年度については、「全国理容美容学生技術大会全国大会」ワインディング部門において、本校2年生の学生が優勝している。
- 資格試験合格率は非常に高いことが注目される。美容師国家資格の合格率は、春・秋合わせて過去3年間（令和4年度から令和6年度）は90%以上で、全国平均（全国平均合格率約80%）を超える水準を維持している。この他、これまでも、エステティック国際ライセンス シデスコ及びインファ、日本ネイリスト協会3級など、それぞれの試験において全国平均合格率を大きく上回る結果を残している。
- 就職率も注目される。就職希望者のうち美容・ファッション関連業界への就職率は、過去5年間100%を維持している。
- 将来構想に一環として、平成20年度に専門職大学院（ビューティビジネス研究科・修士課程）を設置し、専門学校から大学院への一貫した人材育成に取り組んでいる。
- 文部科学省が平成26年度から創設した「職業実践専門課程」として、ハリウッド美容専門大学校が認定された。これは、美容分野における知識、技術および技能について組織的に教育を行う学校とし

て、美容教育の中核的立場を推進することが期待されている。

【改善が望まれる点】

○ハリウッド美容専門大学校にとって、入学定員の充足が課題である。定員充足に向けて、学校説明会など多大な努力が行われているが、社会的な環境変化に備えて、学科・課程の統廃合を含めた抜本的な対策を検討する ことが必要であろう。

-